

古着リサイクルの呼びかけチラシが完成。

本会では月約18トンの古着を回収しリサイクルをしています。古着を燃やさない福島県！古着を燃やさない社会づくり！をスローガンに20年以上取り組んできましたが、震災後は全国から宅急便で事務所に届けられる古着の量が増大しています。

理由の一つに、本会では被災地研修や農業体験で訪れる多くのボランティアの皆様を受け入れています。その際古着リサイクルの取り組みについても紹介させて頂いております。その事に賛同して下さった方々、ネットを通して活動を知り賛同して下さる方々が増えているからです。遠くは沖縄、四国、北海道等からも届けられています。先日は小笠原町の小学校からも届きました。

いわき市を中心に県内40カ所にリサイクルボックスを設置し定期回収していますが、現在は回収された古着の95%がリサイクル出来るようになりました。ゴミとして焼却処分せざるを得ない量は5%に止まっています。

形を変えることなくそのままの形でバザーや店舗販売等で活用出来るものが21%。ウエス材として活用できるシャツやシーツ、タオル等が15%（これは障害者施設の仕事となります）。その他にリメイク用として活用出来る古着及び海外支援助物資等で6%。大きく50%を占めるのがエコウールリサイクルです。中身はほぼ自動車の内装材への活用です。以前は輸出業者を通し海外に出していましたが、震災後国内でリサイクルするルートを確認できたため、その必要がなくなりました。繊維製品であれば傷や少々の汚れがあっても活用できますので、ゴミとして捨ててしまわず、是非本会にお送りください。



常磐地区でコミュニティサロン & 相双地域交流サロンはじまりました!

常磐地区のコミュニティサロンが7月9日(火)にオープンしました。常磐地区でも小名浜と同じ交流ができたかと思ひ開催に至りました。サロン会場は湯本温泉街にある元禄彩雅宿「古滝屋」さんの1階ロビーになります。こちらのサロンは毎月第2・第4の火曜日に開催いたします。第2火曜は常磐地区交流サロン、第4火曜は相双地域交流サロンとなっております。（※祝日の場合はお休みとなります。）いわき市のお住まいの方ならどなたでも参加できます。ぜひご利用ください!「古滝屋」さんでは日帰り入浴もできますのでサロンの帰りにいかがでしょうか?



岩手・宮城視察の研修を終えて

いわき市内で復興支援を行っている3団体が（スタッフ5名）7月10日～7月12日（2泊3日）岩手・宮城の被災地2県を訪問。本会の運営する小名浜地区復興支援ボランティアセンターからも2名のスタッフが参加してきました。研修のコンセプトとして、震災後の復興活動に関わってきた団体との交流を中心に、情報共有を通じ、相対的に福島の実況を捉え、いわきにおけるこれからの復興活動のヒントや目標を探る事の出来た研修でした。



主な視察内容として「支援団体のネットワーク組織の取組・借上げ住宅入居者への支援活動事例・行政や社協と民間団体の連携・復興後のまちづくりを視野に入れた取組・災害公営住宅の建設に関わる地域の取組」等々盛り沢山の研修内容でした。岩手県は大船渡市と陸前高田市を訪問しました。宮城県では気仙沼市と石巻市及び南三陸町を訪問し、それぞれの支援団体から心に残るお話を伺うことが出来ました。

現地に足を踏み入れ、自分自身の目で確かめないと真実は分らないとよく言われますが、全くその通りだと実感しました。津波で多くの命が奪われ、町としての機能すら全て失ってしまった現状。そこからの復興は、言葉には出来ませんが、現実にはあまりにも厳しい復興への道のりだと感じました。そんな中で支援事業に取り組んでいる各団体の皆さんは、自分自身も被災者でありながら、地元の復興の為に頑張っていました。その姿に私たちも勇気付けられ決意を新たにしました。

今回の研修で学んだ事を今後活かして、小名浜復興支援ボランティアセンターでの取組みに活かしていきたいと思ひます。

イベントカレンダー

- 7月 28日(日)・・・ヨークタウン大原 定例バザー及び資源の拠点回収
- 8月 1日(木)・・・上荒川ヨークベニマル ついたちバザー
- 25日(日)・・・ヨークベニマル大原 定例バザー及び資源の拠点回収
- 9月 1日(日)・・・上荒川ヨークベニマル ついたちバザー
- 22日(日)・・・ヨークベニマル大原 定例バザー及び資源の拠点回収

東北グランマ——福島グランマ誕生

震災後、岩手の津波被災地では、多くの婦人が仕事を失いました。そうしたお母さんたちの仕事作りのために生まれたのが東北グランマです。これは株式会社アバンティの渡邊智恵子社長の提案で進められ、コットンの端材を活用してのクリスマス用オーナメント作り等で多くの成果を出すことができました。

昨年オーガニックコットンプロジェクトをスタートさせたいわきに於いては、収穫した綿でコットンベイズ作りに取り組み、今までに5000個以上のベイズを完成させました。これらの製品は全国各地で販売され人気の商品です。

ベイズの内、おくるみに包まれた「ねんねちゃん」については障害者施設で作っておりますが、帽子を被った「キャップちゃん」は仮設住宅のお母さん達によって作られています。常磐湯本町にある広野町応急仮設にお住まいのTさんは現在86歳。4畳半一間のお部屋で懸命にベイズ作りに取り組む姿がテレビで紹介されました。「どんな思いでお人形を作ってますか」とのアナウンサーの質問に「魂を込めて作ってますよ」「このお仕事はどうですか」には「仕事があって楽しい、幸せですよ」と少女のような可愛い笑顔で答えておりました。このほか現在子育て中の若いお母さんは「作るたびに娘が、可愛いねーと喜んでくれるのが嬉しくて楽しみのお仕事です」と話していました。



現在までに12名の「ふくしまグランマ」が誕生しました。今後コットンを素材とした様々な作品づくりに挑戦してくれそうです。

コットンベイズ教室人気

製品としてのコットンベイズは今までに何回か紹介してきましたが、最近では作るための教室を開いてほしいとの要望が寄せられるようになりました。

綿で作る手作りの人形の可愛らしさに魅せられるのは女性ばかりではありません。先頃コットンベイズを手にとった男性の方、「俺は人形など可愛いと思ったことは無いけど、これだけは可愛いな」とすっかり気に入られ早速購入されました。過日開催した交流サロンで、2個の人形を仕上げたご婦人。「キャー可愛い嬉しい」と少女のような笑顔をふりまき「あなたそっくりよ〜」に会場は大爆笑でした。

現在本会では仮設住宅や、交流サロン等を会場に要望にお応えし講習会を開催してきましたが、8月にはいわき市のリサイクルプラザクリンピーの家で初めてコットンベイズ教室を催すことになり感心が高まっています。

さらに県外からのボランティア体験で来られるグループから仮設のお母さん達に教えていただきながら交流をしたいとの申出が相次いでいます。1グループ10人位までなら大丈夫です。興味のある方は本会にお問い合わせください。